

## V 校内支援体制の充実

### 1 校内支援体制の機能の充実

本県では、小・中学校等における校内委員会の設置、校内コーディネーターの指名などの校内支援体制の整備を積極的に行っており、全国的にもトップクラスの整備状況となっています。

特別支援教育のより一層の充実のために、学校や地域の実情に応じた校内体制づくりと同時に、その機能の強化が求められています。

#### A 中学校での取組<大規模校>

##### 【校内支援体制機能の充実】

- 校内委員会の活性化(実態調査、情報交換、事例検討等)
- 定期的な校内研修の開催<短時間の開催、回数の確保、全教員参加>
  - ・特別支援教育に関する研修の校内研修計画への位置付け(研修機会の確保)
  - ・開かれた校内研修(地域の小・中学校及び幼稚園・保育所等への開催案内)
  - ・個別の教育支援計画の作成に関する演習及び事例検討
  - ・学級経営の在り方と指導や支援のポイント
- 「授業の展開例」「指示の出し方」「視覚的教材の例」「掲示物の作成・掲示法」等
- 校内コーディネーターを各学年に配置
- 各学年単位での事例検討や研修の開催による機能強化と効率化

##### 《第1段階》

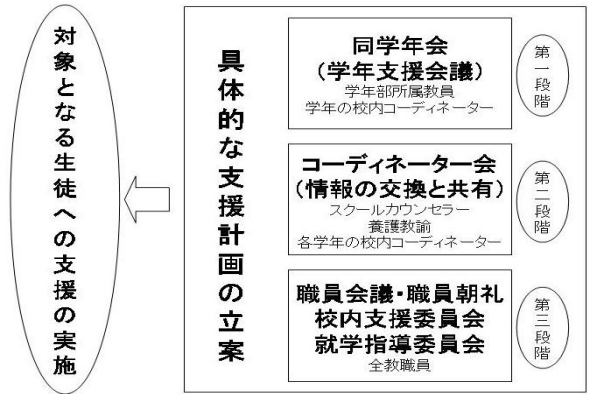
- ・同学年会の開催  
気になる生徒の情報交換、具体的な指導や支援について協議

##### 《第2段階》

- ・コーディネーター会の開催  
各学年コーディネーター、教育相談担当(チーフ兼務)、スクールカウンセラーの参画による指導や支援の方法の検討

##### 《第3段階》

- ・全教員による支援体制  
気になる生徒への支援についての共通理解<職員会議、職員朝礼等>



中学校における校内支援体制

#### B 小学校での取組<小規模校：各学年単学級>

##### 【校内支援体制機能の充実】

- 校内支援委員会を全教職員で組織<全教員で全児童を支援できる小規模校のよさ>
- 「支援資源シート(校内支援用)」の作成
- 児童生徒の長所や能力などの個性を生かした支援の実践記録
- 校内支援委員会における支援の方針等の検討
- 全教職員が日々の実践記録や研修記録を整理・保管するファイルの作成
- 校内支援体制の見直し
  - ・校内コーディネーターが中心となった事例の検討
  - ・校内コーディネーターが児童への指導や支援を行う時間の確保
  - ・参観日等に、校内コーディネーターが保健室で待機できる校内体制<保護者からの相談に即時対応>

平成19年度 支援資源シート

学年	児童氏名	担任
家庭環境と保護者の思い等		
	実態と様子等	配慮・支援等
1学期		
2学期		
3学期		
次年度作法への引き継ぎ		

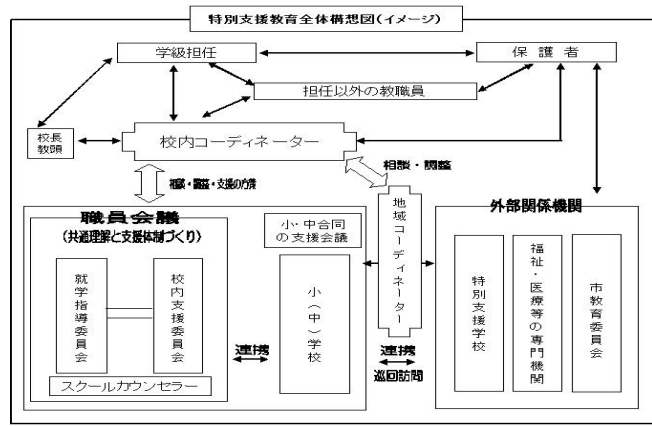
支援資源シート(校内支援用)

【特別支援教育に関する全体構造図の作成】

○特別支援教育推進のための構想図の作成

<作成の意図>

- ・校内支援委員会の役割の明確化
  - ・校内コーディネーターの役割の明確化
- ↓  
全教員で確認
- ・校内支援体制の機能を強化



特別支援教育全体構想図(イメージ)

【中学校時期の発達段階を考慮した校内支援体制の整備ー進路指導を中心にー】

- 発達障害のある生徒への支援の充実に向け、進路指導に焦点を当てた校内支援体制の整備
- 定例職員会議において、全教職員の参加による校内支援委員会を開催
- 本人の学習に対する意識、授業中の取組、成績の変化等を全教職員で繰り返し検討
- 本人や保護者が希望する卒業後の進路の実現に向け、全教職員が「一人一支援」の協働

特別支援教育体制

ー全教職員による気になる子どもへの一人一支援ー  
生徒の進路を見据えて、卒業までの期間に継続して行える支援

	生徒B	生徒B
校長	将来の夢を踏まえた進路指導を個人面接を通して、今後の目標や見通しを持たせる。	将来の夢を踏まえた進路指導を個人面接を通して、今後の目標や見通しを持たせる。
教頭	授業中に提出したプリントやノートに励ましの言葉を書く。授業後に会話をする。	選択社会の時間に個別指導(地名や人物名を通して漢字力を定着させること)を行う。
教諭A	社会科の学習を通して漢字力をアップできるように支援する。	家庭との連携を図り、授業中眠らないように基本的な生活習慣を身に付けさせる。
教諭B	自主学習ノートを活用し、基本的な問題を用意する。	机やロッカーの整理をさせる。
教諭C	週2回30分程度、基礎的な内容の補習を行う。集中力が続くように、できるだけ側について指導する。	週2回30分程度、基礎的な内容の補習を行う。
教諭D	人との接し方で、特に、言葉遣いや挨拶がきちんと大きな声できるようにする。できなければ褒める。	授業中、眠らずに1時間が受けられるようにする。
養護教諭	保健室を利用したときには、マナーの指導をする。声かけをする(挨拶)。	衛生週間を身に付けさせる。(爪が長い場合は、確認させ行動へ)保健室利用時には、歯磨きチェックを行う。

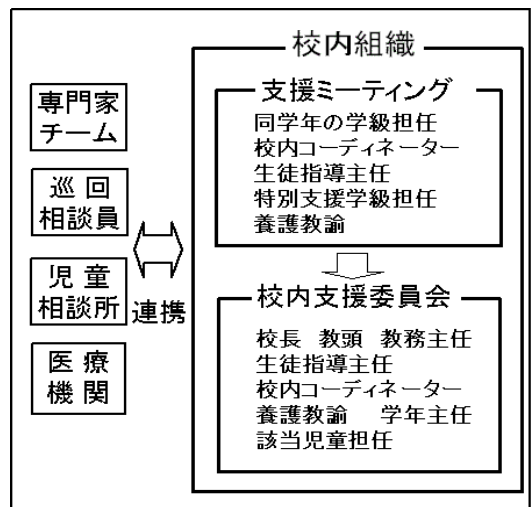
一人一支援分担表

C地域での取組<大規模小・中学校>

【「支援ミーティング」の開催】

学級担任の気付きを基に、支援を必要とする児童生徒の実態を全教員で共通理解し、関係機関との連携を深め、支援に結び付けるための校内支援体制を工夫した。

- 目的
  - ・支援を必要とする児童の実態把握
  - ・具体的な指導や支援について協議
- 参加者
  - ・学級担任
  - ・校内コーディネーター
  - ・養護教諭
  - ・生徒指導主任
  - ・特別支援学級担任
- 「校内支援委員会」での検討
  - ・全校体制による指導や支援が必要と判断された場合



校内支援体制

【「個別の記録シート」の作成と活用】

- 「支援ファイル」
  - ・協議内容や児童生徒についての情報を記録
  - ・各学年用の「支援ファイル」
  - ・支援の記録の累積と次学年への引継
- 目的
  - ・児童生徒理解の深化と支援の見直し
- 記録者
  - ・学級担任と校内コーディネーターが整理
- 内容
  - ・日々の実践記録の整理
  - ・児童生徒の課題だけでなく、長所も記述
  - ・これまでの対応と今後の支援
- 活用
  - ・「支援ミーティング」や「校内支援委員会」での参考資料

	児童生徒の実態		主な支援の方法・内容等	
	長所	課題	これまでの対応	今後考えられる支援
学習面				
行動面				
その他				
保護者の願い			他機関からの情報（心理検査等を含む）	

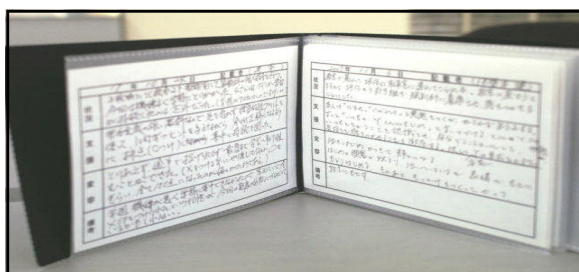
「個別の記録シート」の様式

【「オーダーメイドマニュアル」の作成と活用】

- 目的
  - ・教員間で児童生徒への支援の共有化(個々の場面での指導や支援をマニュアル化)
  - ・適切な支援の共通理解と不適切な対応の回避
- 作成方法
  - ・支援にかかわった教員が記載し、記録を累積
- 効果
  - ・特定の児童生徒に対する支援だけでなく、他の児童生徒への支援の参考資料となった。
  - ・学級担任一人で問題を抱え込む状況はなくなり多くの教員の支援を受けながら、学級経営、学習指導を進めていくことができた。
  - ・中学校では、学級担任以外に各教科や部活動顧問などとの連携につながった。

年 月 日 ( ) 記載者 ( )
状況:
支援:
変容:
備考:

オーダーメイドマニュアル様式



オーダーメイドマニュアル

【「特別支援教育Q & A」の作成】

- 小学校で、校内コーディネーターが作成したものを基に作成
- 校内の全教員に配付
- 新しく着任した教員にも配付し、常に手元に置いて活用



Q & A表紙

特別支援教育Q & A (改訂版) 目次

～クラスのみんなの気になる子のために～

頁	目
Q 1	「特別支援教育」に関する動向はどのようになっているのでしょうか？ ①国の動向 ー理念と基本的な考え方ー ②県の動向 ー山形県特別支援教育ビジョンの概要ー
Q 2	学習障害（LD）とはどのような障害でしょうか？
Q 3	注意欠陥・多動性障害（ADHD）とはどのような障害でしょうか？
Q 4	高機能自閉症、アスペルガー症候群とはどのような障害でしょうか？
Q 5	ソーシャルスキルトレーニング（SST）とはどんなものですか？
Q 6	行動療法とはどのような指導法ですか？
Q 7	該当児の保護者に連絡指導教室などのように動いたらよいのでしょうか？
Q 8	盲・聾・養護学校や特殊学級等での教育の現状は？
Q 9	望ましい校内支援体制の在り方はどのようなものなのでしょうか？
Q 10	該当児の保護者とのように連携をとっていけばよいのでしょうか？
Q 11	就学指導はどのような流れで行われるのでしょうか？
Q 12	県内の相談機関にはどのようなところがありますか？

Q & A目次

## 2 校種間の連携

発達障害を含め障害のある幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、長期的な視点に立ち、医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連携して支援を継続できるツールとして、「個別の教育支援計画」の作成を推進しています。

幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援を長期間にわたり、校種間を超えて継続していくためには、各学校において、「個別の教育支援計画」を引き継ぎ、活用していく体制とともに、校種間の引き継ぎの仕組みづくりについて、地域や学校の実情に応じた工夫をすることが求められます。

校種間での支援の継続ができる体制作りは、保護者も安心して学校に教育を委ねようという気持ちにつながり、早期発見・早期支援や保護者と学校との信頼関係の構築につながります。

### A 地域での取組

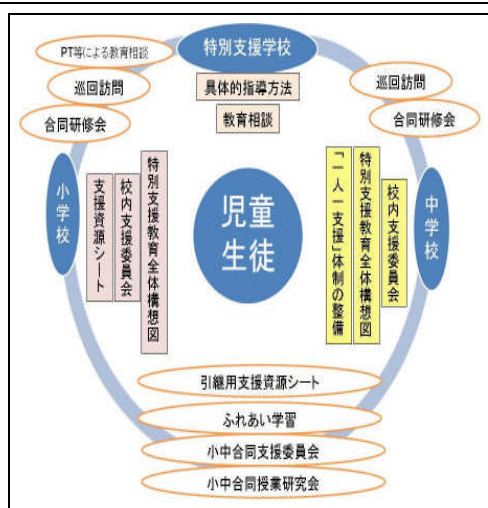
- 小・中学校情報交換会(相互参観)と「出前授業」の活用
- 中学校区にある小・中学校の校内コーディネーターによる情報交換会
  - ・実態把握ための記録用紙「児童生徒実態調査票」の書式の統一化
- 入学前に実施する小・中学校連絡会への校内コーディネーターの参加
  - ・一斉指導の中での学習内容を理解しやすい個別の支援の方法
  - ・効果的であった指導や支援の方法
  - ・効果がなかった、あるいは逆効果であった指導や支援の方法
- 幼稚園・保育所と小学校の連携
  - ・就学時健康診断、仮入学、幼稚園・保育所の学芸会等での事前の実態把握と連絡協議
- 小学校入学前の小学校と幼稚園・保育所との連絡協議会
- 幼稚園・保育所の職員の校内研修会への参加

実態調査票		平成 年 月 日現在 【記入者: 】	
児童・生徒名		小学校( ) 学年( ) 組	
在学校・学年・組		標準学力検査	
そのほか ・心理検査 ・社会生活能力検査 ・定期テスト 等		RIT: 国語 / 算数	
読解等の記録			
困っていること(課題)		児童・生徒の長所	家庭での様子・保護者の願い
	児童・生徒の様子 (実態の把握など) 長所・強み等	これまでの対応 (今まで行った実態の対応と結果等)	今後考えられる対応 (望まれる今後の実態)
学習面			
生活行動・発達障害対応関係			
その他(保護者・家庭実態)			

児童生徒実態調査票

### B 地域での取組

- ふれあい学習
  - ・中学校の英語の授業への参加、部活動の体験、小・中学校合同運動会等の実施
  - ・6年生の児童が中学校の学校生活に適応しやすくなることをねらいとして実施
- 授業研究会
  - ・小学校から中学校への学習面での支援の継続
  - ・中学校入学前後の児童生徒の学習や生活面での様子に基づいた授業の進め方
  - ・一人ひとりの課題に応じた指導や支援 等
- 「支援資源シート(中学校への引継ぎ用)」を活用した小・中学校の連携の強化
- 小・中学校合同の授業研究会の計画的な実施と授業改善等



【支援資源シートを活用した小・中学校の連携の強化】

- 児童一人ひとりの課題に応じた支援を小学校から中学校へ継続
- 「支援資源シート（中学校への引継ぎ用）」の作成
  - ＜小学校の校内コーディネーターと6年の担任とが協力して作成＞
- 入学時の校内支援委員会で、生徒の課題、指導や支援の方法を全教職員で共通理解

支援資源シート～よりよい中学校生活に向けての引継ぎ～			
	平成	年度	
児童氏名	性別	中学校に在籍している兄や姉	
家庭の様子(保護者の状況、本人への期待等)		6年担任のコメント(性格、学級内での様子、得意な面など)	
実情や支援	1・2年	3・4年	5・6年
○効果あり			
●効果なし、逆効果			
学習			
生活			
友人関係			
出欠状況			
その他			
支援資源シート（中学校への引継ぎ用）			

【小・中学校合同の支援会議の実施】

- ◎小・中学校の全教職員が参加し、全児童生徒の課題に応じた指導や支援について協議

【6月の支援会議（中学校会場）】

- 中学校1年の生徒を対象に実施した実態調査を基にした協議
  - ・「中学校生活への安心と不安に関するアンケート調査(中学校版)EASY」
  - \*EASY: (Expectation and Anxiety for Junior High School Life Assessment in Yamaguchi)
- 中学校生活での様子について情報交換、具体的な指導や支援方法について協議

【11月の支援会議（小学校会場）】

- 小学校6年児童一人ひとりの特徴や具体的な支援の引継ぎのための情報交換

【小・中学校合同の授業研究会の計画的な実施と授業改善】

- ◎小・中学校合同の授業研究会を年間2回実施
- ◎授業研究に先立ち、各学校の校内研修会において、授業を参観するための視点を整理

【1回目の授業研究会（6月：中学校会場）】

- 1年の生徒を対象に数学科の授業
  - ・生徒が理解しやすい指示、視覚的にとらえやすい教具の提示法などについて協議
  - ・小学校6年時と比較した生徒の状況について協議

【2回目の授業研究会（11月：小学校会場）】

- 6年の児童を対象に国語科の授業
  - ・コミュニケーション能力の向上と中学校入学を意識した発表や話し合い活動に重点を置いた学習展開
  - ・指導や支援をいかに中学校に滑らかに移行するかという視点からの協議
  - ・中学校入学に向けて養いたい力など指導や支援の方向性の確認



## C 地域での取組

### ◎小・中学校間で支援の継続を図ることができるシステムの確立

- 小・中学校の教員による情報交換会
  - ・支援の必要な児童生徒の実態と支援の方向性の確認
  - ・個別の指導や支援の計画についての見直し
- 小・中学校間相互の授業公開・参観
- スクールカウンセラーの参画
  - ・中学校に配属されているスクールカウンセラーによる小学校の保護者の心理的援助
- ボランティア等の外部人材の参画

小学校から中学校への滑らかな支援の継続が重要ですが、その際、小学校における児童一人ひとりの困難さへの支援の継続だけではなく、中学校生活を視野に入れた支援や、児童の多くが自己洞察が深まる思春期にさしかかった時期であることにも留意しなければなりません。

発達障害のある児童の場合、適切な行動ができない経験が重なると、自己肯定感を保ちにくくなり、不適応行動等の二次的な問題が生じることがあります。

### 【「個別の教育支援計画」の作成と活用】

- 「個別の教育支援計画」を活用した小学校から中学校への支援の継続
- 「支援ミーティング」の記録と「個別の記録シート」の累積による個別の教育支援計画の作成と見直し
- 「支援ファイル」や「オーダーメイドマニュアル」による個別の教育支援計画の見直し及び次学年への支援の引継
- 校内研修での事例検討会の実施
  - ・全教員の特別支援教育の理念、自立という視点、個別の支援の充実についての理解
  - ・的確な実態把握とPDCAサイクルによる「個別の教育支援計画」の充実

### 【特別支援学校のセンター的機能の活用】

#### ◎特別支援学校のセンター的機能を活用し、「合同支援会議」を開催する地域支援システムの確立

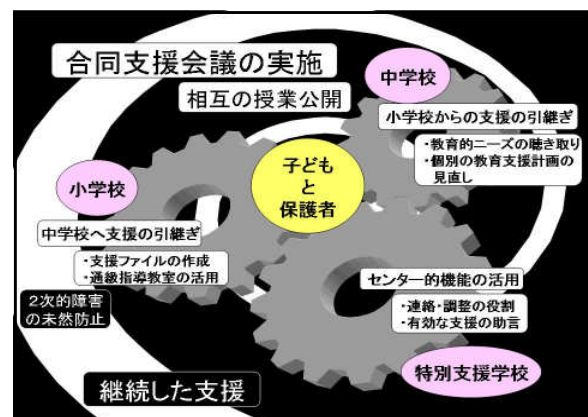
- 特別支援学校の地域コーディネーターが連絡・調整
- 小・中学校が連携して実施

#### 【第1回合同支援会議】

- 来年度中学校に入学する、個別の支援が必要だと考えられる児童についての情報交換等
- 参加者
  - ・地域コーディネーター
  - ・小・中学校の校内コーディネーター
  - ・生徒指導主任 ・教育相談担当
  - ・スクールカウンセラー ・養護教諭
- 成果
  - ・中学校の教員は、児童の特性と小学校での指導や支援について知ることができた。
  - ・小学校の教員は、中学校入学までの支援の見直し、高学年での支援の充実を図った。

#### 【第2回合同支援会議】

- 中学校入学を控えた児童の保護者を交えての合同支援会議
- 参加者
  - 地域コーディネーター、小・中学校の校内コーディネーター、該当児童の担任、保護者、近隣の特別支援学校教育相談担当
- 効果
  - ・保護者の思いを聴き、中学校の受け入れ体制の整備に有効であった。
  - ・公開授業と同日開催し、支援が必要とされる児童生徒の学習場面での様子を基に、支援の継続性や有効性と今後の支援の方向性について協議できた。



合同支援会議（イメージ）

### 3 保護者や地域への理解・啓発 –リーフレットの活用等–

発達障害を含め障害のある幼児児童生徒一人ひとりの実態を的確に把握し、早期から適切な指導及び必要な支援を行うことが重要です。このため、小・中学校等における校内支援体制の整備や地域における医療、福祉等の関係機関と連携した相談支援体制の整備とともに、保護者や地域に対する理解・啓発も必要となります。

#### A 中学校での取組

##### 【保護者や関係機関との連携】

- 特別支援教育に関する理解・啓発用リーフレットの作成・配布
  - ・学期末の個人懇談時に、小・中学校のすべての保護者に配付
- 自治会との連携
  - ・自治会の回覧板を活用した理解・啓発
  - ・リーフレットの地域の方々への回覧
- 各幼稚園・保育所との連携
  - ・理解・啓発用リーフレットの掲示
- 就学时健康診断(小学校)での配布
- 仮入学(中学校)での配布

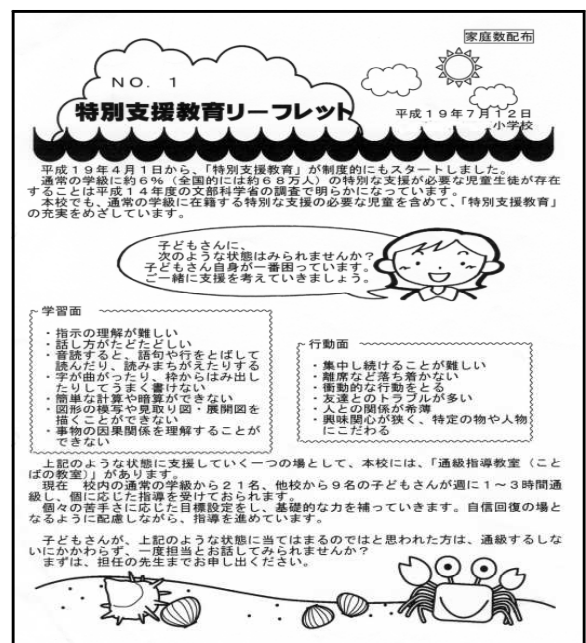


リーフレットの例

#### B 小学校での取組

##### 【リーフレットの作成と配布】

- 目的
  - ・保護者に対する支援や特別支援教育への理解・啓発
- 作成・配布
  - ・各学期末の懇談会前に作成・配付
- 活用
  - ・担任が支援の必要な子どもの保護者と話し合う際の参考資料
- 内容
  - <1学期>発達障害のある子どもの状態と通級指導教室の紹介
  - <2学期>通級指導教室に通級している子どもの学習の様子や保護者の思い等
- 効果
  - ・発達障害の子どもの学習面、行動面における困難さと具体的な姿が書かれているので保護者は自分の子どもの姿と重ね合わせて支援の必要性を感じた。
  - ・通級指導教室を利用する児童や保護者の率直な感想等を紹介したことで、支援の必要性を感じている保護者が安心して教育相談に訪れた。



リーフレットの例

##### 【保護者の感想等】

- ・わが子は集中力が続かないのが悩みだったのですが、本人に聞いたところ、授業中は以前に比べて集中しやすくなったと話していました。また、楽しそうに通っているのがありがたいです。
- ・本人が、ことばの教室に行くことが楽しいようです。少しずつ国語が分かるようになり、クラスでの国語の時間も楽しいと言うようになりました。
- ・ことばの教室に通うようになり、少しずつですが、何事に対しても積極的になってきたように思います。字もていねいに書こうという姿勢が見られるようになりました。